

実践授業見学・研究協議会（豊富）

■日時 2013年3月8日（金）14:30～16:45

■場所 北海道豊富高等学校 視聴覚教室

■参加者 授業見学16名 研究協議会8名

【プログラム】

14:30～15:20 授業「生産の仕組みー生産活動のしくみの理解を通して、利潤や賃金等の公正について考えるー」

升野伸子（筑波大学附属中学校）

15:35～16:45 研究協議会

【実践授業見学・研究協議会の要約】

実践授業において升野伸子氏（筑波大学附属中教諭）は、たこ焼き店の経営を例に、従業員の給料をいくらにすればもうかるか、初期投資の費用をどう回収するかなどを生徒に問いかけながら展開した。生産活動の仕組みや利潤を得るための工夫を考えさせた。

終了後は、稚内、浜頓別、中川、天塩から集まった社会科の教員らで研究協議会を行った。

ワークショップ（稚内）

■日時 2013年3月9日（土）14:00～17:10

■場所 稚内北星大学 本館301教室

■参加者 8名

【プログラム】

14:00～15:00 「歴史から経済を読み解くー金本位制、禁輸出禁止・解禁、高橋財政、井上財政ー」

篠原総一（同志社大学経済学部）

15:05～16:05 「賃金から考える公正」

升野伸子（筑波大学附属中学校）

16:10～17:10 「高校入試問題、大学入試問題から経済を読み解く」

野間敏克（同志社大学政策学部）

【ワークショップの要約】

まず、篠原総一氏（経済教育ネットワーク代表）が、日本史の教科書から第一次大戦前後の高橋是清の財政金融政策をとりあげ、経済の視点から解説した。まず金本位制度の本質として、為替レートが固定レートになることや、資本移動を自由化したままだと裁量的な金融政策がとれなくなることを確認した後、金本位制度の停止、復帰、再離脱の過程や積極財政のねらい、井上準之助との考え方の違いなどが解説された。

つぎに、升野伸子氏（筑波大学附属中教諭）が、前日に北海道豊富高校で行ったモデル授業の意図について説明があった。たこ焼きや原価や設備の償却をマグネットシートで分かりやすく表示するなどの工夫が特徴的であった。そして、升野氏より教科書では、いきなり株式会社が取り扱われたり、労働者は弱い存在でありこれを守るために労働三法があるといったりする構成になっているので、生徒が企業や生産を理解する構成になっていないとの指摘があった。この問題の改善に向けて、経済全体の仕組みのなかで自然に企業や生産を理解するとともに、効率と公正という概念を身近な経済場面で想起させながら考えさせられる授業内容となっていた。

さいごに、野間敏克氏（同志社大学政策学部）が、全国の高校入試問題、大学入試問題から出題されている需要・供給曲線、プライマリーバランス、ギリシャ国債の暴落、金融政策の変化、ゼロ金利や量的緩和政策といった問題を経済学の視点から解説された。また、最近の経済的時事としてアベノミクス、リフレ政策について解説された。

（文責：北海道豊富高等学校 山崎 辰也）